

平成 28 年度普及指導活動に係る外部評価の実施状況について

1 趣旨

広島県の農業技術指導所において、より効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するために、当年度の普及指導計画から選定した普及課題について幅広い視点から外部委員より意見を聴取し、その評価結果を次年度の普及指導計画等へ反映させることをねらいとして実施した。

2 外部評価会議の内容

(1) 外部委員の構成

分野	所属・役職等	人数
先進的な農業者	指導農業士・農園園主	1名
若手・女性農業者	指導農業士・農園園主	1名
農業関係団体	農業団体課長	1名
消費者	消費者団体事務局長	1名
学識経験者	大学准教授	1名
マスコミ	新聞社次長	1名
民間企業	経営コンサルティング会社代表取締役所長	1名

(計7名)

(2) 評価対象

★普及指導計画に定められた成果目標の達成状況

普及指導計画の対象5区分（新規就農者，認定農業者，経営発展志向農家，参入企業，集落法人）のうち、「新規就農者」を評価対象とした。（全体501課題のうち新規就農者166課題）

※新規就農者166課題を一覧として評価対象とするとともに、代表的な5課題について、より詳細な評価を実施した。

【新規就農者代表課題】

課題番号	主な品目	就農後年数	担当指導所
①	ほうれんそう，こまつな	2年目	西部
②	ミニトマト，レタス	3年目	西部
③	いちご，水稻，スイートコーン	4年目	東部
④	ほうれんそう，なす	5年目	東部
⑤	トマト，水稻，ほうれんそう	1年目	北部

★普及指導活動の体制・普及職員の資質向上の取組

評価対象を次のとおりとした。

・組織体制

組織図・普及職員担当別人数・普及拠点及び普及指導員数の過去10年の動向

・普及職員の資質向上の取組

普及職員研修体系と実施状況

(3) 評価項目

評価対象	評価項目	評価の視点 (例)	
普及指導計画に定められた成果目標の達成状況	評価対象課題 全体の達成状況 (新規就農者一覧)	<input type="checkbox"/> 新規就農者に対する普及活動は計画どおり進んでいるか <input type="checkbox"/> 新規就農者に対する普及活動の目標は達成しているか	
	代表課題	普及指導活動の 計画・課題設定	<input type="checkbox"/> 課題の現状把握, 現状分析が的確に行われているか <input type="checkbox"/> 普及の支援対象として, 対象者の選定は適切か <input type="checkbox"/> 課題の重要性が高く, 課題解決・目標達成に有効な計画か <input type="checkbox"/> 目標の設定, 成果指標は適切か
		普及指導活動の 進め方	<input type="checkbox"/> 活動方法と時期は適切か <input type="checkbox"/> 効果的な所内の活動体制となっているか <input type="checkbox"/> 関係機関との連携・役割分担はできているか
		普及指導活動の 成果	<input type="checkbox"/> 普及指導活動の寄与により, 目標が達成できたか (見込めるか) <input type="checkbox"/> 成果を的確に把握分析し, 今後の活動に向けた課題が整理できているか <input type="checkbox"/> 他産地, 他の経営体への波及効果があるか (見込めるか)
普及指導活動体制普及職員の資質向上の取組	組織体制	<input type="checkbox"/> 普及指導センターの設置数及び設置場所は妥当か <input type="checkbox"/> 普及指導センターの組織体制は, 効率的な体制か	
	普及職員の設置	<input type="checkbox"/> 普及職員の設置数は妥当か <input type="checkbox"/> 普及職員の配置は妥当か	
	普及職員の資質向上の取組	<input type="checkbox"/> 普及職員の研修体系は妥当か <input type="checkbox"/> 普及職員の研修内容は資質向上に資するものか	

(4) 外部評価会議の開催状況

【第1回目】※外部委員への事前説明

- ・日時：平成28年7月13日(水) 10:00~15:30
- ・場所：県内市町役場, ミニトマト栽培ほ場(現地)

時間	内容	参加者
10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・普及指導活動の説明 チャレンジプラン, 普及指導体制, 普及指導計画等 ・評価対象課題の概要説明 	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
13:00~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査 評価対象課題のミニトマト栽培ほ場現地確認 課題対象者からの概要説明, 質疑応答等 	

【第2回】※外部評価の実施

- ・日時：平成29年1月23日（月）9：30～15：00
- ・場所：県立総合技術研究所 農業技術センター

時間	内容	参加者
9：30～9：50	・外部評価実施概要の説明	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
10：00～12：00	・評価課題実績の説明 (平成28年度普及指導活動実績報告会へ出席)	外部委員 報告課題関係者（市町，JA， 新規就農者），農業技術指導所 農林水産事務所（農林事業所） 畜産事務所，農業技術センタ ー，県庁関係課，農業技術課
13：00～13：55	・評価課題の質疑応答	外部委員 農業技術指導所(所長，担当者) 農業技術課
13：55～14：10	・評価事項説明 (普及指導組織体制，普及職員数の動向，研修 体系等，評価課題【新規就農者一覧】実績まとめ)	外部委員 農業技術課
14：10～15：00	・評価及び意見整理	

3 評価の概要と今後の対応方針

課題番号①（新規就農者代表課題）

1 経営体の概要

- ・複数市町で連携して実施する研修制度で2年間の研修を受け、ほうれんそうの栽培技術を習得し、就農した。（就農2年目）ハウス導入や地域内雇用も行い、計画的な規模拡大を目指している。
- ・土壌の物理性が原因と思われる生育不良が発生し、対策が必要である。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
ほうれんそうの安定生産	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場巡回による栽培技術指導等を実施した。 ・土壌のEC、pH診断結果に基づく施肥管理技術習得を支援した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうれんそう生産量は目標収量を確保し、売上高は目標を上回る金額を達成した。 ・自己診断による適正施肥技術を習得した。 ・土壌物理性に起因する生育のバラつきがあるため、定期的な土壌分析により改良状況を確認するとともに、自ら堆肥施用量、混和方法等を決定するための支援が必要である。
経営計画（ビジョン）策定	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的な規模拡大に伴い、経営計画作成を支援した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・経営実績に基づき、規模拡大に向けた課題抽出・改善方策を明確にした経営計画を作成した。さらに、規模拡大に伴う労力確保、計画的な作業体系を確立する必要がある。 ・規模拡大に必要な農地が一部確保できていないため、人・農地プランの見直し等により着実な農地確保が必要である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<ul style="list-style-type: none"> ○現状分析が的確になされており、経営発展意欲の高い生産者への支援となっている。 ○広域連携による支援体制ができており、組織的な活動により持続性のある指導が可能となっている。 ○大幅に生産量を増やしており、成果が上がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○短期間での規模拡大を目指していることから、今後、綿密な経営計画が必要である。 ○成果指標をより具体的に設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らが規模拡大時の所要労働力や規模拡大に向けた制限要素等の判断ができるように計画策定を支援する。 ○次年度の成果指標は、数字で具体的な実績を把握できるほうれんそうの単収等とする。

課題番号②（新規就農者代表課題）

1 経営体の概要

- ・市町が実施する研修制度で2年間の研修を受け、ミニトマトの栽培技術を習得し、就農した。（就農3年目）
- ・ミニトマト障害果への対策や夏期の労務集中に対する収穫ピークの分散が課題となっている。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
ミニトマトの収量向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場巡回において、硝酸態窒素や土壌水分測定結果に基づく養水管理の改善指導を実施した。 ・定例会（月2回）において、病害虫対策・新技術・気象経過などの情報提供を行い、栽培技術の習得に向けた支援を実施した。 ・農業技術センターと連携して、軟果の解消や着果安定に向けた品種試験を実施した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な養水管理の実施により、軟果は減少した。 ・夏期繁忙期のホルモン処理が適期にできなかったことから着果が安定せず、単収が現状維持となった。 ・農業技術センターにおける品種試験の結果、ホルモン未処理で収量安定が可能な品種が明らかになったため、当該品種の導入を提案し、省力効果、経済性などを検証する必要がある。
新作型導入支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・新作型導入による収穫ピークの分散効果について、労働時間、収量を慣行栽培と比較調査し、作業改善効果を確認するとともに課題を整理した。 ・JAと連携協力し、ミニトマトグループへ新作型導入の効果を情報共有した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新作型導入により、夏期繁忙期の作業時間が13%短縮できたが、収益性向上効果を検証する必要がある。 ・雇用の安定確保及び作業ポイントを理解した人材の育成が必要である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○意欲的な生産者への支援となっている上、現状分析的的確になされており、課題も明確で有効な計画である。</p> <p>○定植期分散や障害果の対応など具体的な対策を提示し、実施しており、地域の課題等が共有できている。</p> <p>○関係機関との役割分担や研究との連携が十分なされている。</p> <p>○新作型の導入提案などこれからの成果や独立自営型経営モデルとして期待される。</p>	<p>○収量が目標を下回ったため、達成に向けての改善が必要である。</p> <p>○労務安定化へのフォローが必要である。</p>	<p>○収量向上は、新品種導入による着果安定等に取り組むこととし、改善を図る。</p> <p>○労務安定化は、次年度も新作型導入による労務平準化を進めるとともに、必要に応じて町やJAと連携し、雇用確保につながる情報を提供する。</p>

課題番号③（新規就農者代表課題）

1 経営体の概要

- ・市町が実施する研修制度や地域内の農業法人で研修を2年程度受け、両親が栽培していたいちご栽培を主体に就農した。（就農4年目）
- ・地区内にいちご生産者が少ない状況であり、技術習得のため、地区外のいちご農家との交流を図る必要がある。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
いちご規模 拡大支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・経営検討会で昨年度の労働時間等を整理し、その実績に基づいて栽培計画を検討した。 ・定期的に作業進捗状況を確認し、課題把握に努めるとともに、市町と連携し、随時、経営検討会を開催した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・定植作業に指標の2倍以上の時間を要している事が把握できたが、その原因分析が必要。 ・天井ビニール被覆開始時期が遅いため、多雨による圃場準備・定植作業の遅れを生じたため、改善が必要。
いちご施肥 管理指導	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・実体顕微鏡による花芽分化の確認方法及び定植適期の判断について、指導した。 ・定期的な土壌診断結果に基づく栽培管理指導、圃場巡回による生育状況を確認した。 ・地区内にいちご生産者が少ないため、地区外のいちご栽培農家で栽培研修を実施するとともに意見交換を行った。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・花芽分化の確認手法の習得ができ、適期定植することができたため、生育順調で1週間以上早い出荷となった。 ・土壌診断結果に基づく施肥管理を実施した結果、EC値が適正值で安定したが、継続した支援が必要である。 ・地区外のいちご栽培農家での栽培研修や意見交換により、栽培意欲が高まった。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○周囲に生産組織もなく、また後継者としての就農であり、よりの確な栽培技術等の習得のため、外部指導機関の役割は大きい。</p> <p>○いちごの花芽分化確認技術の習得についての指導は特に評価できる。</p> <p>○他産地の交流が図れた。</p>	<p>○適正規模での経営として確立できるよう、次の到達目標を共有した上での活動が必要である。</p> <p>○新規就農者の交流の場は持たれているが、品目が異なるため、技術面の向上という点での効果は薄い。</p> <p>○周囲に相談体制もない新規就農者の経営確立のため、県域で支援体制・ツールを共有することが必要である。</p>	<p>○規模拡大の実現に向け、まずは現在の規模で単収・売上目標の達成を到達目標として共有化し、各作業を確実に実行できるよう支援する。</p> <p>○新規就農者の交流は、経営ノウハウの共有等の意義は高い。</p> <p>○周囲に相談体制のない場合は、まずは各指導所が中心となって支援体制を構築していくが、不十分な場合は他の指導所と連携して、対応方法を検討していく。</p>

課題番号④（新規就農者代表課題）

1 経営体の概要

- ・産地の生産組合や関係機関で構成される協議会の研修を1年間受け、露地ほうれんそうを主体に就農した。（就農5年目）
- ・ほうれんそうのハウス導入や夏場のなす栽培への取組を進めており、安定生産が必要である。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
ほうれんそう 収量向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場巡回により、雑草対策や病害虫対策について重点的に指導を行った。 ・夏季高温抑制対策として細霧システムを導入し、効果確認のため、気温と地温を計測した。 ・JA関連組織等と連携し、施肥コスト低減等を目的に展示圃を設置し、資材や施用方法を検討した。 ・ハウス・下葉調製機の導入に向けて、営農計画の見直し等の支援を行った。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌消毒時の適切な土壌水分量指導により雑草発生が抑制でき、防除指導により虫害が抑えられた。 ・夏季栽培については、土壌消毒・地温抑制・加湿状態の改善が必要である。 ・施肥試験により、降雨による流亡が著しいこと、追肥のタイミングによる品質への影響を確認した。 ・ハウス・下葉調製機を導入し、調製作業時間が30%短縮されることを確認した。
なす収量向上 支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場巡回により、病害虫対策について重点的に指導を行った。 ・集中豪雨により、圃場が長時間滞水し、生育が著しく低下した。早期回復のため可能な対策を指導した。 ・研究機関等と連携し、土着天敵を活用した害虫防除へ取組み、天敵温存植物の生育状況や土着天敵の発生状況を調査した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・病害虫防除指導により、病害虫被害を軽減することができた。 ・栽培面積を昨年の約2倍に拡大したため、他品目との労力競合による整枝管理の遅れが生じたことと、集中豪雨の影響により単収が減少した。労力に応じた作付計画の見直し等が必要である。 ・天敵温存植物の生育は順調で土着天敵も発生した。波及も踏まえた土着天敵利用マニュアルの作成等による技術習得が必要である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○関係機関とともに協議会を発足し、新たな担い手の育成に取り組んでおり、当該産地において次の世代を担う生産者に対する支援である。</p> <p>○研究機関等との共同の実証試験を行っており、取組の波及が期待される。</p> <p>○ほうれんそうの収量が向上している。</p>	<p>○ほうれんそうの夏期の作期拡大を目的とした細霧冷房導入の投資効果の把握が必要である。</p> <p>○収量目標がほうれんそう、なすともに下回った点は、次年度に向けた課題整理と対策が必要である。</p>	<p>○細霧冷房は試験的に導入しており、投資効果を検討しているところである。</p> <p>○収量目標達成に向けて、今年度把握できた課題を整理した結果、次年度は、ほうれんそうは施設での生産安定を図るとともに、なすは排水対策を強化し、収量増を目指す。</p>

課題番号⑤（新規就農者代表課題）

1 経営体の概要

- ・ J A関係団体が実施する研修やトマト部会からの技術研修を1年間受け、Uターンにより実家の農業経営を引き継いだ。（就農1年目）
- ・ 規模拡大を目指しており、モデル経営体としての経営確立が必要である。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
トマト出荷量 増加支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圃場巡回により、圃場準備・肥培管理・草勢診断・病虫害防除等の状況把握を行った。 ・ 把握した課題に応じて、資料や栽培マニュアルを活用し、管理のポイントを説明した。 ・ J Aやトマト部会と連携し、栽培技術の統一など細かな情報共有を行った。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標収量が確保できた。 ・ 基本技術は習得できたが、生育初期の管理や病虫害に課題があったため、引き続き支援が必要である。 ・ 次年度は夏季高温環境において、結実・肥大に優れる新品種を導入予定であり、栽培技術支援が必要である。
経営管理支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記記帳や決算処理の指導を行った。 ・ 経営分析を実施した。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決算書が作成された。 ・ 経営分析実施の結果、労働力の確保に課題があることが明確となったため、作業改善等の取組みが必要である。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○熱意のある生産者であり、産地として受け入れ態勢が整っている対象への支援となっている。</p> <p>○関係機関の連携もよく図れており、「トマト栽培研修マニュアル」を作成し指導している点や、新規就農者の講習会は効果的である。</p> <p>○目標が達成され、産地全体の成績向上に寄与できた。</p>	<p>○冬場の加工品製造やトマトとの多品目での複合経営などさらに高い目標への取り組みが必要である。</p>	<p>○当面は、トマト栽培による経営確立を目標としており、栽培技術の向上や経営管理の改善を図っているところである。</p> <p>今後、経営の見通しが立ったところで、複合経営や6次産業化の導入による次の目標を検討していきたい。</p>

新規就農者一覧課題

1 対象

- ・県内 166 人の新規就農者の個別課題。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

- ・平成 28 年度の「売上目標」「成果指標の達成状況」「普及指導活動の成果と課題」「今後の対応」を一覧として整理した。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映、活動方針
<p>○新規就農者を地域全体で育成しようとしている点を強く感じた。</p> <p>○新規就農者に対する取り組みは進められている。</p> <p>○一回でも多く支援をとという前向きな姿勢が良い。</p>	<p>○病虫害被害に悩まされているケースが多いので、初年度からの指導の徹底が必要である。</p> <p>○新規就農は雇用就農が増加しているため、新規就農者の受け入れ・育成に優れている経営体を把握し仕組みを作ることが必要である。</p> <p>○研修期間から就農後まで一貫した普及活動の強化が必要である。</p>	<p>○病虫害防除を適切に行うには、病虫害の特定と防除法の選択の習得が必要である。先進農家の栽培情報の共有や体系的な防除管理等の徹底を図るとともに、基本技術に関する集合研修等を検討する。</p> <p>○新規就農者の受け入れや育成を行うインキュベーション法人による就農支援を本庁と指導所で検討する。</p> <p>○市町や研修機関と連携し、研修生の就農支援（研修講義、営農計画作成等）を行っている。</p> <p>就農後は、認定新規就農者制度の活用を図り、就農計画が達成できるよう普及指導計画に位置付け、支援している。</p>

普及指導活動体制・普及職員の資質向上の取組

1 普及指導活動体制

- ・広島県農業技術指導所管内図，組織図，普及職員担当別数，普及拠点及び普及指導員数の過去10年の動向

2 普及職員の資質向上の取組

- ・広島県普及指導員研修体系，研修実施状況

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	今後の対応
<p>○設置場所を最小限に抑えている。</p> <p>○研修体系は妥当であり，内容も十分なものだと思われる。</p>	<p>○設置場所が増やせないとすれば，JA組織等との連携を強化することで機能強化を図る取組みの検討が必要である。</p> <p>○生産者に対して，細かい指導ができる体制となっているのか。</p> <p>○研修については，販売の現場でバイヤーから話を聞くことや，販売実習等の経験があれば，生産現場での指導の際に参考になるのではないか。</p>	<p>○JA組織等の連携については，JA広島中央会に営農支援センターが設置され，JAと普及の連携と役割分担を検討しているところである。</p> <p>また，JA広島中央会がグランドデザインを策定したところであり，より一層の連携強化を図る。</p> <p>○普及指導計画は，意欲ある担い手を対象としており，経営体に対する活動実績や成果によってPDCAを回し，効果的な普及活動となるようにしていきたい。</p> <p>○販売の現場でバイヤーからの話を聞く研修については2年目研修で実施しており，引き続き実施する予定である。販売実習等は行っていないが，産地の取組として必要に応じて市場や小売での販売実態の把握に努めている。</p>